

中間財の内生的ヴァリエティーモデルにおける最終財企業の技術供与の分析*

石井 貴大†

大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程 2 年経済学専攻

2020 年 1 月 21 日

要旨

本稿では、最終財の独占企業が他の最終財企業に無償の技術供与（以下技術供与という）をした場合の効果の分析を行った。最終財企業と中間財企業を考え、技術供与により、他の最終財企業が参入し、最終財市場が 2 社寡占に変わるというモデル等で考えると、中間財企業の参入企業数の増加により費用効率が上がるので、技術供与により、既存の最終財企業の利潤が増加する可能性があり、独占企業が技術供与をした場合の効果が判明した。

キーワード：中間財の内生的ヴァリエティー、技術供与

*本論文を作成するにあたりまして、祝迫達郎大阪大学教授から終始、丁寧かつ熱心なご指導を賜りました。深く感謝申し上げます。また、本論文の細部にわたりご助言やご示唆をいただきました二神孝一大阪大学教授、並びに、山本和博大阪大学教授に深く感謝申し上げます。

† 大阪大学大学院経済学研究科 〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-7 メールアドレス:u979318f@ecs.osaka-u.ac.jp